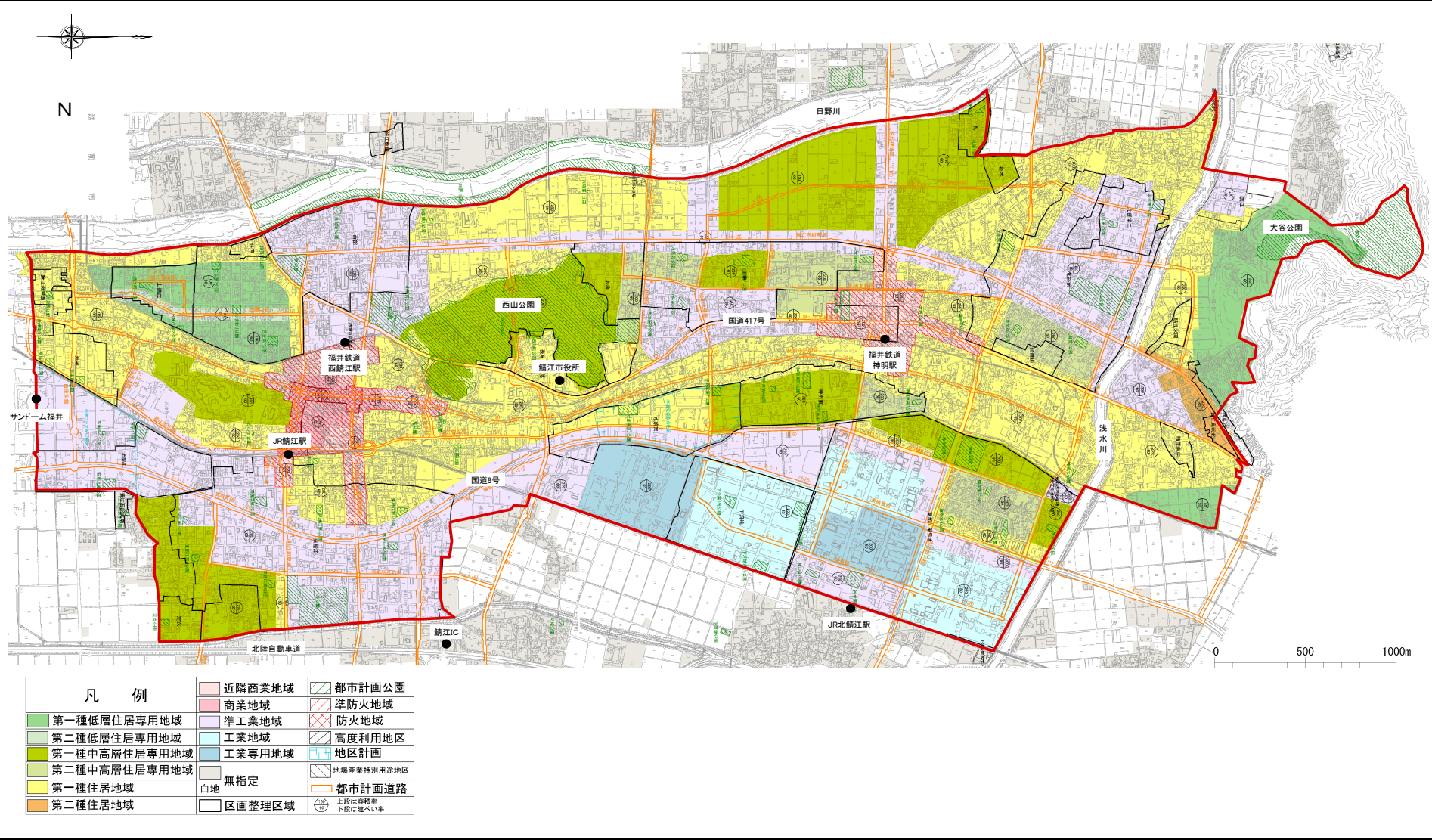


都市再生整備計画の区域

鯖江中央地区(福井県鯖江市)

面積	1,486 ha	区域	舟津町1～5丁目、宮前1～2丁目、上鯖江1～2丁目、住吉町1～3丁目、深江町、屋形町、日の出町、横江町1～2丁目、新横江1～2丁目、有定町1～3丁目、桜町1～3丁目、本町1～4丁目、旭町1～4丁目、柳町1～4丁目、東鯖江1～4丁目、小栗町、小黒町1～3丁目、長泉寺町1～2丁目、西山町、水落町、水落町1～4丁目、北野町、北野町1～2丁目、三六町1～2丁目、神明町1～5丁目、丸所町、泰町1～2丁目、神中町1～3丁目、丸山町1～4丁目、御幸町1～4丁目、島町1～3丁目、東米岡1～2丁目、つつし丘町の全部と五郎丸町、定次町、長泉寺町、上河堀町、下河堀町、杉本町、米田町、吉江町、入町、西郷町の一部
----	----------	----	---



都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	福井県	市町村名	鯖江市	地区名	鯖江中央地区	面積	1,486 ha
計画期間	平成24年度～平成28年度	交付期間	平成24年度～平成28年度				

目標
大目標：「安心して住み続ける ふるさと鯖江」を実現するまちづくり 目標1：安心して住み続ける歩いて暮らすまちづくり 目標2：地域の宝を活かした交流・連携によるにぎわいのあるまちづくり 目標3：豊かな自然や歴史、伝統、文化を感じる美しいまちづくり 目標4：市民がともに支え合い、行政と一体となった市民主役のまちづくり
目標設定の根拠
まちづくりの経緯及び現況 ・鯖江市は福井県のほぼ中央に位置し、北は福井市、南は越前市に隣接している。東西約19.2km、南北約8.3kmにわたる地域のうち、その多くが平坦地であり、東部および南西の一部が山地となっている。市の中央を低い丘陵が南北に細長く延び、これに沿って市街地が形成されており、鯖江中央地区はこの丘陵地を中心とした区域であり、市の生活と経済活動の中心でありながら、丘陵の緑や日野川、浅水川の潤いに恵まれたところである。 ・南北に広域アクセスの幹線が3本縦断しており、この丘陵に沿って両側に国道8号と西縦貫線、東側を北陸自動車道、JR北陸本線が走り、市街地には福井市と越前市を結ぶ福井鉄道福武線が縦貫するなど、南北に縦貫する鉄道や道路が発達し、近隣都市をはじめ広域的な交流の機会に恵まれ、人口減少が著しい福井県においても人口が増加している。 ・鯖江市は先人の礎の下に築かれた歴史、伝統、文化、地場産業を多く有している。近松門左衛門や鯖江藩第7代藩主間部詮勝公に関する歴史、文化は鯖江中央地区に色濃く見られる。また、眼鏡、繊維、漆器の三大地場産業をはじめとする「ものづくりのまち」であり、眼鏡フレームは日本一の産地(シェア:国内約90%、世界約20%)として、繊維は「繊維王国福井」の中核として、漆器は1500年の歴史を誇る「越前漆器」の里として、これまで発展してきた。今後は、地域の宝を活かした魅力あるまちづくりへの活用が期待されている。 ・人口は、福井県の人口が減少傾向にあるなかで微増を続けているが、15歳以下の年少人口の減少、65歳以上の高齢人口の増加は進んでおり、今後は、人口が減少することも予想されている。また、都市機能が集積する本町、旭町周辺は市内で最も人口が減少しているため、空き家や空き地が増加している。 ・平成23年度の観光客入込み数は138万8千人であり、平成18年度比で216%と増加傾向にある。西山公園は、平成23年度の入込み者数が103万1千人と市全体の74%を占める観光のシンボリックな存在であり、春の「つつじまつり」では23万6千人、秋の「もみじまつり」では6万4千人を客集するが、多くが県内旅行者の利用であるため、アクセス条件の良さを活かした広域的な集客の開発余地が見られる。
課題 ①人口減少社会における都市活力、都市運営の維持 今後の人口減少過程において、人口や施設が低密度に拡散した状況では都市の活力が低下し、運営コストも増大するため、既存ストックを活用したコンパクトなまちづくりを進めることで、都市活力、都市運営の維持を図る必要がある。 ②地域資源を活かす交流・連携を支える交通ネットワークの充実 にぎわいのあるまちづくりには、地域資源の魅力を高めるとともに、地域資源を活かした広域的な交流や身近な連携の進展が望まれる。このため、北陸自動車道鯖江ICやJR鯖江駅を中心としたネットワークをはじめ、福井鉄道の各駅やバスなどの身近な公共交通など交流・連携を支える交通ネットワークの充実が必要である。 ③地域の個性を活かした生活環境の向上 豊かな自然環境に囲まれる中で伝統と歴史を重ねてきた都市であることから、生活環境に関する市民の満足度が高い都市である。今後も地域の個性を活かした生活を維持するために、全ての市民が安心して住み続けるための生活環境の向上が必要である。 ④市民との協働によるまちづくりの普及・拡大 鯖江市は市民主役によるまちづくりを進めているが、今後の少子高齢化社会へ対応するため、地域コミュニティの強化やまちづくりの参加意識の向上などにより、市民、事業者、行政の協働によるまちづくりの普及・拡大が必要である。
将来ビジョン(中長期) ■まちの将来像(第5次鯖江市総合計画)…自信と誇りの持てる自主自立のまち 鯖江市は、豊かな自然の中で、人々の生活に密着したものづくりのまちとして発展してきた魅力ある「ふるさと」である。これから未来に向けて、「ふるさと鯖江」を残すために、持続可能なまちづくりに努めるとともに、先人が育てた歴史、伝統、文化や産業、固有の自然など魅力ある資源を独自の宝と捉え、これらの特性を活かした自信と誇りの持てる鯖江市の創造を目指し、市民がともに支え助け合い、行政と一体となったまちづくりを目指す。 ■鯖江中央地区の将来都市構造(鯖江都市計画マスタープラン) ◇鯖江地区(にぎわい生活拠点)…既存の生活サービス機能、公共交通サービス機能の集積を活かし、新たに整備する道の駅を拠点として、新たな観光需要の拡大による都市の活力再生を図る。 ◇神明地区(やすらぎ生活拠点)…市民生活の安らぎづくりの拠点として、生活サービス機能、公共交通サービス機能の利便性を高める。 ◇立待地区(ものづくり生活拠点)…眼鏡産業と生活が一体となったものづくりの生活拠点と位置づけ、近松門左衛門などの歴史や地域特性を活かした景観作りを推進する。 ◇東部工業団地(産業集積拠点)…交通条件を活かした流通業務産業の集積を推進するとともに、新たな産業集積を推進する。

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
地区内人口減少の抑止	人	鯖江中央地区内における居住者数	安心して住み続けるまちづくり、自信と誇りをもてる活力あるまちづくりを推進することにより、都市中心部に居住する魅力を高める。	36,775人	H23	36,775人	H28
西山公園の利用者数	人	西山公園諸施設の入場者数やイベントの参加者数	道の駅整備により街なか観光の拠点となる西山公園の利用者数増加により、街なか観光増加への波及を図る。	1,031,000人	H23	1,200,000人	H28
地域交流イベント数	回	鯖江中央地区内で実施される市民中心の交流イベント開催数	市民が中心となって地域の宝を活かした活力あるまちづくりを推進する。	17回	H23	20回	H28

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針		方針に合致する主要な事業
【安心して住み続ける歩いて暮らすまちづくり】 ・既存の鉄道やコミュニティバス等による公共交通のストックを活用する都市構造とすることで、公共交通の利便性の高い中央地区への居住を推進し、駅を中心として歩いて暮らすまちづくりを推進することで、過度に自動車に依存することなく、全ての市民が安心して住み続けることのできる生活環境を確保する。 ・安心して住み続けるまちづくりに向け、自然災害に対する防災性の強化を図る。多数の市民が利用する公共施設の耐震化や、防災備蓄の充実、災害時における迅速で安全な避難、救護、復旧を実現するために狭あいな市道の拡幅整備を行う。		【基幹】道路(市道舟津西区画2号線改良事業ほか17路線) 【基幹】道路(市道鳥羽中芦山線改良事業) 【基幹】地域生活基盤施設・地域防災施設(勤労青少年ホーム耐震改修事業) 【基幹】地域生活基盤施設・地域防災施設(鯖江市防災備蓄倉庫整備事業) 【基幹】高質空間形成施設(JR鯖江駅前広場シェルター改修事業) 【提案】地域創造支援事業(神明自転車駐車場改修事業、JR鯖江駅パーク&ライド'駐車場改修事業) 【提案】地域創造支援事業(進徳小学校・中央中学校グラウンド改修事業) 【提案】地域創造支援事業(えきライブラリー整備事業)
【地域の宝を活かした交流・連携によるにぎわいのあるまちづくり】 ・中央地区には、つつじまつりに象徴され多くの観光客を集める西山公園をはじめとした観光資源や、眼鏡、繊維、漆器に代表されるものづくりなど豊富な地域の資源やストックがある。 これらを地域の宝として交流・連携に活かし、都市の活力を高め、地域のにぎわいづくりを推進する。		【基幹】高質空間形成施設(市道本町桜町線ほか11路線) 【基幹】公園(西山公園、東公園) 【基幹】公園(大谷公園、御幸公園) 【基幹】地域生活基盤・情報板(鯖江ブランド発信事業) 【基幹】高次都市施設・観光交流センター(観光交流センター整備事業) 【基幹】高質空間形成施設(まちなか装飾照明設置事業) 【提案】地域創造支援事業(西山動物園拡張事業) 【提案】地域創造支援事業(まなべの館エントランス改修事業)
【豊かな自然や歴史、伝統、文化を感じる美しいまちづくり】 ・中央地区には、西山公園や日野川、浅水川をはじめとする水と緑の環境や歴史、伝統、文化など今まで積み重ねてきた地域固有の資源やストックがあり、そこで営まれ続けている生活がまちづくりの基本である。このため、この生活をより身近に感じ、自信と誇りをもって次代に継承する意識を高める美しいまちづくりを行う。		【提案】地域創造支援事業(間部詮勝プロジェクト事業) 【提案】地域創造支援事業(大谷公園周辺整備事業)
【市民がともに支え合い、行政と一体となった市民主役のまちづくり】 ・今後のまちづくりには、既存の社会基盤のストックを活用する都市運営が求められ、これには、地域の状況を一番知っている市民の知恵と工夫が不可欠である。 このため、市民や事業者、行政の協働によるまちづくりを推進し、それぞれの役割と責任を持って、自助、共助、公助による市民と行政が一体となった市民主役のまちづくりを行う。		【基幹】高次都市施設・地域交流センター(鯖江公民館改築事業) 【提案】まちづくり活動推進事業(鯖江公民館改築ワークショップ開催事業) 【提案】まちづくり活動推進事業(市道西山長泉寺線延伸計画調査事業) 【提案】まちづくり活動推進事業(西山動物園拡張ワークショップ開催事業) 【提案】事業活用調査(事業効果分析調査)

その他

○道の駅西山公園が目標達成に向けて担う機能及び整備手法について

・南北に縦走する幹線道路、高速道路が複数有り、広域的なアクセス条件が整っているが、いずれも中心地区の周辺部にあることから中心市街地の活性化との連携が薄く、中心市街地は生活関連や歴史・文化に関する多様なストックを有しているながら空洞化が進行する現状である。このため、多様な旅行者が利用する道の駅を市の中心市街地に位置する西山公園に整備して、西山公園の利用促進をはじめ、街なか観光や地場産業関連の観光など、にぎわい創出や産業振興に寄与する拠点とすることで、既存ストックを活かした活力ある中心市街地の再生を図る。

・道の駅は、市と県による一体型整備手法であり、市が地域情報の発信、特産品等の販売、公園利用の便益機能をもつ地域振興施設と大型バス駐車場を整備し、県が交通安全施設として小型車用駐車場、便所、休憩所、道路交通情報提供施設を整備する。

社会資本整備総合交付金チェックシート

(都市再生整備計画事業等タイプ)

計画の名称: 鯖江中央地区

事業主体名: 福井県 鯖江市

チェック欄

I. 目標の妥当性	
①都市再生基本方針との適合等	
1) まちづくりの目標が都市再生基本方針と適合している。	○
2) 上位計画等と整合性が確保されている。	○
②地域の課題への対応	
1) 地域の課題を踏まえてまちづくりの目標が設定されている。	○
2) まちづくりの必要性という観点から地区の位置づけが高い	○
II. 計画の効果・効率性	
③目標と事業内容の整合性等	
1) 目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。	○
2) 指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	○
3) 目標及び事業内容と計画区域との整合性が確保されている。	○
4) 指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。	○
5) 地域資源の活用はハードとソフトの連携等を図る計画である。	
④事業の効果	
1) 十分な事業効果が確認されている。	○
2) 事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。	○
III. 計画の実現可能性	
⑤地元の熱意	
1) まちづくりに向けた機運がある。	○
2) 住民・民間事業者等と協力して計画を策定している。	
3) 継続的なまちづくりの展開が見込まれる。	○
⑥円滑な事業執行の環境	
1) 計画の具体性など、事業の熟度が高い。	○
2) 交付期間中の計画管理(モニタリング)を実施する予定である。	
3) 計画について住民等との間で合意が形成されている。	